



平成29年9月22日

川西町議会議長 加藤 俊 一 殿

川西町議会広報広聴常任委員会  
委員長 佐々木 賢 一

閉会中の所管事務調査報告について

平成29年第2回川西町議会定例会において許可された所管事務調査について、別紙のとおり報告します。



# 平成 29 年度 広報広聴常任委員会研修視察報告書

I 研修視察期日 H29年7月4日(火)～5日(水)

II 研修先 1 H29年度町村議会広報クリニック TKP麴町駅前会議室  
2 埼玉県小川町議会

III 視察参加者

委員長	佐々木賢一	副委員長	伊藤 寿郎
委員	橋本 欣一	鈴木 幸廣	伊藤 進
	神村 建二		

IV 視察目的

- 1 全国町村議会広報クリニック研修
- 2 大胆な紙面リニューアル先進地視察調査

V 研修視察報告

1 全国町村議会議長会広報クリニック

当日は北海道・東北・関東地区より53町村議会が参加、全国広報コンクール審査委員の吉村潔氏を講師に迎えクリニックを受けた。

クリニックの視点では

- ① 議事機関としての説明責任が十分に果たされているか
- ② 議会活性化と広報の連携が感じ取れるか
- ③ 地域課題の共有、住民参加の広報が充実しているか
- ④ 読者ニーズに応える情報編集がなされているか
- ⑤ 進んで手にとり、読みたくなる工夫があるか

以上5項目を課題とし研修を受けた。

2 埼玉県小川町議会

- ① 視察地の概要

小川町は、面積60.45平方キロ、人口3万6000人であり、埼玉県  
の南西部の最も北西に位置し、秩父地方のすぐ外側に位置する。江戸か  
ら川越を抜けて秩父に向かう往還が町を東西に抜けており、古くはその地  
理的な優位性から六齋市が立つなど、地域の商業中心であった。

外秩父の山に囲まれた小川盆地に市街地があり、その治世から「武蔵の  
小京都」の異名を持ち、伝統工芸の和紙で知られる。

## ② 視察対応者

小川町議会副議長 柴崎 勝

同	広報発行特別委員会委員長	高橋 勉
同	副委員長	田中 照子
同	委員	戸口 勝
同	委員	笠原 武
同	委員	島崎 隆夫
同	委員	笠原 規弘
同	議会事務局長	新井 章
同	主任	大塚 将史

## ③ 視察内容

### 【質問事項】

(1) 見やすい紙面レイアウトにするためどのようなことを工夫されてる  
か。

紙面のリニューアルに伴って、以下の「6つの約束」を掲げ、編集方針と  
している。

#### ① 読みやすい文字

行間広めで読みやすいユニバーサルデザインフォントを使用

#### ② やさしい表現

難しい言葉はわかりやすく、専門用語には解説をつける。

#### ③ 見やすい誌面

大き目の見出し文字、適度な余白などで

見やすいレイアウトに

④ 親しみのあるデザイン

20代・30代の方にも手にとってもらえるデザインをめざす。

⑤ 皆さんの声を大事に

町民の皆さんにご登場いただく場面を増やしていきます。

⑥ 色への配慮

多様な色覚を持つ方々にとって少しでも読みやすくなるよう、色の使い方に配慮する

(2) 「議員の聞く×つなぐ」の編集について説明を。

これまで「安全安心の主役たち」をテーマに取材型の企画(議員記者クラブ)に取り組んできたところ。リニューアルを機に、「議員の聞く×つなぐ」に名称を改めてスタートした。基本は前進の記者クラブ同様に、担当する委員が現地へ(取材対象)足を運び、インタビューを行う。事前に簡易なアンケート(対象に合わせた内容で10項目程)をお願いし、当日はそれらをたたき台に深めたり、掘り下げたりしている。現状は紙面の都合で、「議会だよりを読んだことがあるか」「この際、言わせて!」の2項目の質問を反映するにとどまってしまっている。お気づき・ご指摘のように、“編集”というほど大げさな作業はようしてない。また、臨場感・生の声を伝えるために、“原文のまま掲載”している。

(3) 議会広報誌発行以外の広報活動は。

6月定例会号(8月1日発行)から、「マチイロ」への掲載を準備中。また、QRコードを活用して、町ホームページ内にある議会報のページに誘導すること等、限られた媒体の活用だが工夫を図っているところ。あくまで、議会広報発行を目的とした特別委員会であるので現状は紙媒体の編集・発行に尽力したい。また個人的には大手新聞社が提供している。「子供新聞」のような『子供議会だより』のような簡易なものを作れたらと企んでいる。

基本条例も未制定であり、議会報告会の類は議員各位の取り組みにとどまっている状況。歯がゆいが、“改革”や“活性化”は大幅に

遅れている。川西町議会同様に「広報広聴」といった委員会体制に改めていく必要を感じている。議会報の充実、議会の充実なくして成り立たない。充実した議会となるよう努めていきたい。

(4) 広報活動で課題となっていることは。

各編集委員会が長時間にわたってしまっている。

そもそも委員のなり手不足。必然的に“やらされている”との感覚から、取り組む姿勢には委員間で差異が生じている。一方で現委員長の独断と偏見で進行・決定している印象が強く、後任（委員長・委員ともに）や引き継ぎ、後世にわたる取り組みの維持が困難であろうと据えている。いつ・誰がやっても、同程度の紙面ができるような手立て（マニュアル化や簡素化、記事・ネタのストックやパターン化）も必要と考えている。

また、単純に各委員の編集技術向上や研鑽は必須で、それらに終わりはない。

予算の都合上、各号平均16ページ・年間全4号で64ページに限られていることも課題である。

## VI 総括

小川町議会広報委員会における紙面の大幅なリニューアル効果は想定以上の効果を得られた。これまでの「硬い・難しい」といった議会へのイメージも払拭できたと手ごたえを感じているとの事。

また、各委員の意識向上と活性化に繋り議会広報誌を待ちわびてるファン拡大の相乗効果となった。

当議会も連続入賞におごらず、高ぶらず向上心とチャレンジ精神で今後に望みたい実のある研修であった。